

フランスから被災地に届けられた60着の柔道着



昨年12月27日～29日にフランスのラ・タロディエール市で開催された「ラ・タロディエール年末国際柔道講習会」。中央に写っているのが主催者のプロア・ドネル先生

昨年末にフランスで行われた「ラ・タロディエール年末国際柔道講習会」の開催にあたり、ラ・タロディエール市と主催者より東日本大震災で被災された柔道の仲間へ贈られた義援金3,000€で、被災学校に柔道着が寄贈された。その橋渡しをした「柔道の輪を世界平和に繋げる会」が、その活動を報告する。

記 / 榎原 幸文（「柔道の輪を世界平和に繋げる会」事務局長）

義援金3,000€で被災学校に柔道着を

昨年12月27日～29日にフランスのラ・タロディエール市で、ラ・タロディエール年末国際柔道講習会が開催され、本会（WPJ）から平野義彦（京都外国語大学教授）を団長として田中勲（奈良学園登美ヶ丘中学・高等学校教諭）榎原孝文（京都・創健堂整骨院院長）の3名が参加しました。

この講習会は今回で31回を迎えた伝統ある講習会で、第1回には本会の代表である藤緒省太師範が講師として招かれ、以後度々講師を務められています。

3日間行われた講習会に5カ国から毎日約250名の参加があり、小学生から60歳代と思われる方まで幅広い年齢層でしたが、すべての参加者がとても熱心に講師の言葉に耳を傾け、実技も汗を流して真剣に取り組んでいたところがとても印象的でした。

講習会開催にあたり、主催者である

ラ・タロディエール柔道クラブのプロア・ドネル先生からWPJに対して、「東日本大震災で被災された柔道の仲間に、講習会を後援して下さい」というラ・タロディエール市からの500€を含めた義援金3,000€を贈りたいので、その橋渡しをしてほしい」との依頼がありました。

そこで、このお心遣いをどのような形で被災された方々にお届けするのが良いのかWPJ会員の中で検討し、個人にお渡しするのではなく柔道部が所

有する柔道着として寄贈させて頂くことにし、具体的な寄贈先は、現地の教育委員会を通して被災学校を教えて頂き決定しました。

柔道着は、静岡県浜松市にある（株）高柳喜一商店・高柳喜一社長のご協力を得て、裾にFrance42・WPJの文字と、必要な学校には胸に校名を刺繍して、試合着・稽古着合わせて60着を用意することができました。

寄贈先は以下の5校です。

福島県立双葉高等学校・福島県立小



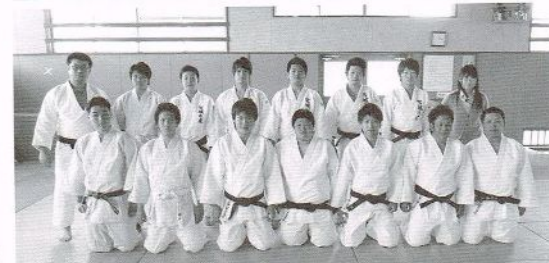
宮城県気仙沼海洋高等学校・陸前高田市立第一中学校

それぞれの学校から、フランスへお礼の気持ちを伝えてほしいと、メールや手紙と共に写真が送られてきました。手紙の中には被災してからの切実な思いも書かれていましたが、柔道着が届けられたことで柔道を通して人の心の温かさを感じたとも書かれていました。また写真からは、部員の皆さんの明るさと、決して負けないぞという固い決意が伝わってきます。

今回、フランスで義援金をお預かりするセレモニーが行われた際、ラ・タロディエール市のガリド・バスカル市

長から、「震災で被災された皆さんに、フランスからも復興を応援している事をぜひ伝えてほしいと思います。また今回のことをきっかけに、私たちの市の名前を知って頂くとともに、これからは行われるこの講習会に、日本から参加して下さる方が一人でも増えたとすればとてもうれしいことです」という言葉がありました。

この柔道着を着る機会を得た方々の中からいつの日か、ラ・タロディエール年末国際柔道講習会に参加しようという方が現れることを楽しみにしています。



（左）高柳喜一商店の代表取締役社長の高柳喜一氏、（中）高柳喜一商店の代表取締役副社長の高柳喜一氏、（右）高柳喜一商店の代表取締役副社長の高柳喜一氏